

問Ⅰ 下記の文を読んで、次の各設問に答えなさい。(注：法律の専門知識を問うものではありません。)(配点50点)

(設問1)

筆者が下線部(1)のように主張する論拠について、「定住中心主義」の内容を明らかにしながら、250字以内で説明しなさい。(20点)

(設問2)

下線部(2)について、「退屈」がいかなる状態であるかを明らかにしながら、筆者がこのように主張する理由を説明したうえで、人生の中で「退屈」に立ち向かうためにはどうすればよいか、具体的な例を一つ挙げて、あなたの考えを250字以内で述べなさい。(30点)

著作権法により公開していません

[問Ⅰの文]

出典：國分功一郎『暇と退屈の倫理学』(新潮社、2022年)84頁～89頁、91頁～94頁、96頁～97頁、103頁～107頁。

ただし出題に際して、見出しを省略し、漢数字を算用数字に変えている箇所がある。また、原文の略は<中略>、原文における引用の略は〔略〕と示している。

問Ⅱ 下記の文を読んで、次の各設問に答えなさい。(注：法律の専門的知識を問うものではありません。)(配点50点)

(設問1)

筆者の指摘する「常識」に反し、日本人は、社会的ジレンマ実験において、どのような態度をとる傾向にあるのか、そして、いかなる結果がもたらされるのかについて、150字以内で説明しなさい。(20点)

(設問2)

日本人の集団主義文化についての筆者の見解の背後にある問題意識を簡潔に述べたうえで、これに対するあなたの見解を400字以内で述べなさい。(30点)

著作権法により公開していません

[問Ⅱの文]

出典：山岸俊男『安心社会から信頼社会へ』（中央公論新社、1999年）28頁～29頁、38頁～39頁、45頁～46頁、49頁～53頁。

ただし出題に際して、見出しを省略し、漢数字を算用数字に変えている箇所がある。また、原文の略は〈中略〉、原文における引用の略は〔略〕と示している。